

## 研修事業情報

大項目	中項目	内容	参照PDF
研修の概要	①対象	心身共に健康で、訪問介護事業に従事しようとする就業意欲のある方、もしくは在宅・施設を問わず介護の業務に従事しようとする方。年齢・性別・学歴不問とする。	
	②研修のスケジュール	平成29年11月25日(土)～平成30年3月17日(土)	日程表
	③定員・指導者数	定員:20名 指導者:7名(山下秀幸、黒木勝久、福重智之、山内智子、生嶋暁美、宮中緑、石原卓)	講師情報
	④研修受講までの流れ	募集:ホームページ、チラシ広告 申し込み方法:窓口での直接申し込み、e-mail・電話による申し込み書類郵送	
	⑤費用	受講料:58,800円、教材費:6,480円 支払い方法:現金又は振込 分割払い応相談 振込口座:宮崎銀行 大島支店 普通預金79024(株)エバーライフ 代表取締役金丸宜裕	
	⑥留意事項・特徴・受講者へのメッセージ	質問事項はe-mail、FAX等で受付、1～2日で回答いたします。 現場への見学もいつでも可能です。実際仕事をしている人に直接質問することもできます。 卒業後の就業先も紹介いたします。	
課程責任者	課程責任者名	金丸 宜裕	
研修カリキュラム	科目別シラバス		シラバス
	科目別担当教官名		日程表
	科目別特徴		シラバス
	科目別通信・事前・事後学習と内容及び時間	定められた期間内に3回の添削課題を課し、添削の結果、80/100点以上の合格基準に達しなかった受講生に対しては再度提出を求め、合格点に達するまで指導いたします。	シラバス
	通信課程の教材・指導体制・指導方法・課題	教材:日本医療企画「介護職員初任者研修課程」テキスト1～3巻 指導体制:講師7名 指導方法:通信と講義 課題:添削課題	
修了評価	修了評価の方法、評価者、最履修等の基準	受講態度が良好で、介護職員初任者研修の講義及び演習のすべてのカリキュラムを履修した者を修了評価の対象とする。  修了評価は筆記試験を行い、下記評価基準を満たした者を研修修了者として認定し、修了証明書を発行する。  但し、修了評価試験で不合格となった者は、再試験を行う。再試験は、3回を限度とする。 ＝評価基準＝ ① 修了評価試験・・・70/100点以上 ② 添削課題・・・・・・80/100点以上 評価者:課程責任者 金丸宜裕	
講師情報			講師情報
実績情報		2013年度1回実施(2013年12月～2014年3月通信講座)8名 2014年度3回実施(2014年 5月～2015年4月通信講座)42名 2015年度3回実施(2015年 5月～2016年4月通信講座)26名 2016年度3回実施(2016年 5月～2017年3月通信講座)15名	
連絡先	申込・資料請求先	郵送:宮崎県宮崎市大島町南窪843番地 (株)エバーライフ	
	研修担当者	事務長 吉村昌彦 0985-65-7272	
	法人の苦情対応者	石原 卓 0985-65-7272	
	事業所の苦情対応者	石原 卓 0985-65-7272	

講師情報

名前	山下 秀幸	
略歴	介護職5年 支援相談員1年 介護支援専門員13年	
現職	居宅介護支援事業所 所長	
資格	社会福祉主事任用資格	平成9年3月取得
	介護福祉士	平成13年5月取得
	介護支援専門員	平成15年3月取得
	主任介護支援専門員	平成21年2月取得
	社会福祉士	平成24年3月取得
名前	黒木 勝久	
略歴	介護職5年 支援相談員10年	
現職	特別養護老人ホーム 施設長	
資格	介護福祉士	平成11年4月取得
	介護支援専門員	平成18年3月取得
	社会福祉士	平成25年4月取得
名前	生嶋 暁美	
略歴	小規模多機能施設 介護支援専門員8年	
現職	小規模多機能施設 施設長 兼介護支援専門員	
資格	介護支援専門員	平成13年3月取得
	介護福祉士	平成22年3月取得
	認知症ケア専門士	平成23年1月取得
名前	福重 智之	
略歴	介護職12年	
現職	デイサービスセンター 介護職 主任	
資格	介護福祉士	平成17年3月取得
名前	山内 智子	
略歴	看護職18年	
前職	龍桜高等学校 看護学科実習担当教	
資格	准看護師	平成7年3月取得
	看護師	平成12年3月取得
名前	宮中 縁	
略歴	介護職11年 介護支援専門員1年	
現職	グループホーム 介護支援専門員	
資格	准看護師	平成3年3月取得
	介護福祉士	平成20年4月取得
	介護支援専門員	平成25年4月取得
名前	石原 卓	
略歴	介護職6年	
現職	グループホーム施設	
資格	介護福祉士	平成28年5月取得

講義・演習室



演習用備品

2Mベッド



ポータブルトイレ



車椅子



浴槽



備品一覧(台)		(内レンタル)
ポータブルトイレ	3	0
2Mベッド	3	0
浴槽	3	0
自走式車椅子	3	0

介護職員初任者研修（シラバス）

科目番号・科目名	1. 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「住宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	内 対面学習 時間数	内 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信課題の概要等
①「介護」とは？	2	2	0	<講師による講義の内容> 1) 法律の用語からみた「介護」 2) 介護保険制度で提供される介護サービス <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護サービスの概要</li> <li>・ 代表的な居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス</li> <li>・ DVD教材の視聴及び解説</li> </ul>
②介護サービスの仕事とは？	2.5	2.5	0	<講師による講義の内容> 1) 働く側からみた「介護の仕事」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別養護老人ホーム</li> <li>・ 認知症高齢者グループホーム</li> <li>・ 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容</li> </ul> 2) 利用者の立場からみた介護サービスの状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例紹介</li> <li>・ 高齢者夫婦が利用している介護保険サービス</li> <li>・ 介護サービスの意味するところー「社会的な価値」をもつ仕事</li> <li>・ DVD教材の視聴及び解説</li> </ul>
③介護の資格とキャリアシステム	1.5	1.5	0	<講師による講義の内容> 1) 介護福祉制度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法律上定められた「介護福祉士」</li> <li>・ 資格取得の方法など</li> </ul> 2) 訪問介護員（ホームヘルパー）研修制度について 3) 介護サービス従事者の要請システム全般の見直し <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職への入職段階ー介護職員初任者研修課程修了段階</li> <li>・ 一定の実務経験後（実務3年以上）ー介護福祉士養成施設卒業（介護福祉士）</li> <li>・ 介護福祉資格取得後更に一定の実務経験後ー認定介護福祉段階</li> </ul> 3) 介護の職務の基本的理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DVD教材の視聴及び解説</li> </ul>
合計時間数	6	6	0	
使用する教材・備品等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職員初任者研修課程テキスト1</li> <li>・ ホワイトボード</li> <li>・ DVD</li> </ul>			

介護職員初任者研修（シラバス）

科目番号・科目名	2. 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	<p>① 介護職が、その職務の中で、利用者の個人としての尊厳を守り、利用者本人とともにその主体的な生活を実現させる担い手であることに気付く。</p> <p>② すべての福祉の目的である自立（自律）支援を理解する。</p> <p>③ 利用者の尊厳を傷つける行為や虐待に関する知識の習得。</p>			
項目番号・項目名	時間数	内 対面学習 時間数	内 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信課題の概要等
①人権と尊厳を支える介護	3	1	2	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人の人権の尊重の有り方、介護職のエンパワメントの視点に基づいたアドボカシーについて</li> <li>・ ノーマライゼーション理論について</li> <li>・ 虐待防止・身体拘束の禁止について、具体例をあげながら</li> </ul> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>演習手法：「介護分野における ICF の視点の活用と QOL の向上」について、小グループに分かれグループディスカッションする</p> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
②自立に向けた介護	4	1	3	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立・自律支援について、具体的な利用者の事例をしめしながら、重要性を説明</li> <li>・ 意欲やモチベーションの高め方、個別化について</li> <li>・ 介護予防の考え方について</li> </ul> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>演習手法：利用者の事例についての具体的な自立支援の方法を小グループに分かれグループディスカッションする</p> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
③人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「人権とは」制度や歴史的背景等おりませ</li> <li>て</li> <li>・ 事例や体験談も含めた人権への取り組みの説明</li> </ul>
合計時間数	9	4	5	
使用する教材・備品等				

介護職員初任者研修（シラバス）

科目番号・科目名	3. 介護の基本			
指導目標	① 介護職に必要な専門性と職業倫理を理解する。 ② 利用者に対する個別化の重要性を認識し、十人十色の生活を支えるための視点を学ぶ。 ③ 介護現場に生じがちなリスクとリスクマネジメントについて知る。 ④ 介護職に起こりやすい健康障がいとその予防・対処法を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	内 対面学習 時間数	内 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信課題の概要等
①介護職の役割、専門性と他職種と連携	2	1	1	<講義内容> ・ 地域包括ケアの方向性 ・ 介護職の役割の理解（利用者本位の視点と自立支援） ・ 根拠ある介護の提供 ・ 様々なチームケアの重要性 <通信学習課題の概要>別紙
②介護職の職業倫理	2	1	1	<講義内容> ・ 介護職としての社会的責任を認識し、日本介護福祉士会倫理綱領やヘルパー憲章等で明確に示されている「倫理」を熟知させ、介護実践に反映できるようにする。 <演習実施方法> 演習手法：「倫理」とは何か、なぜ「倫理」が必要とされるのかを、利用者目線で考えるために、具体的な事例を用いたグループディスカッションを行う。 <通信学習課題の概要>別紙
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0.5	0.5	<講義内容> ・ 介護事故の要因となりやすい高齢者の特性と対応を、具体的な事例などを使いながら解説 ・ 現場で実施できるリスクアセスメント方法について（ひやりはっと等） ・ 感染対策について ・ 緊急時の対応法 ・ DVD教材の視聴及び解説
④介護職の安全	1	0.5	0.5	<講義内容> ・ ストレスマネジメント ・ 腰痛予防 ・ 手洗い・うがいの正しい方法等 <通信学習課題の概要>別紙
合計時間数	6	3	3	
使用する教材・備品等	DVD ホワイトボード			

介護職員初任者研修（シラバス）

科目番号・科目名	4. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	①介護保険制度や障がい者総合支援制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	内 対面学習 時間数	内 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信課題の概要等
①介護保険制度	3	0.5	2.5	<通信学習課題> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険制度の創設について</li> <li>・ 介護保険制度の動向</li> <li>・ 介護保険制度の特徴</li> <li>・ 保険システムについて（被保険者・保険料・保険給付）</li> <li>・ 要介護認定について</li> <li>・ ケアマネジメント</li> <li>・ 居宅サービスについて</li> <li>・ 施設サービスについて</li> </ul>
②医療とのリハビリテーション	2	0.5	1.5	<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護と福祉や医療との連携について</li> <li>・ 介護職が行える医行為、リハビリテーションについて</li> <li>・ 医療職が行う医療行為と介護職の医行為の境界線の説明</li> <li>・ DVD教材の視聴と解説</li> </ul> <通信学習課題の概要>別紙
③障がい者総合支援制度およびその他制度	4	0.5	3.5	<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者自立支援制度の具体的な解説（理念、概要、対象、市町村の役割、サービスの種類と内容、財源と利用者負担の見直し等）</li> <li>・ 個人の権利を守るその他の制度について（生活保護制度、成年後見人制度、日常生活自立支援事業等）</li> </ul> <通信学習課題の概要>別紙
合計時間数	9	1.5	7.5	
使用する教材・備品等	DVD ホワイトボード			



介護職員初任者研修（シラバス）

科目番号・科目名	5. 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	① 介護職には、個々の高齢者や障がい者のコミュニケーション能力や特性に配慮したかかわりが必要不可欠であることを学び、その技術を習得する。 ② 不適切なかかわりとはどういったものであるかを理解する。 ③ 専門職間でのチームケアの重要性・有効性を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	内 対面学習 時間数	内 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信課題の概要等
①介護におけるコミュニケーション	2	1.5	0.5	<講義内容> ・ 利用者との良好なコミュニケーションの意義と目的について ・ 障がい（言語・視覚・聴覚等）特性別コミュニケーションの留意点 ・ 介護職の基本的態度としての「傾聴」「受容」「共感的理解」の技術の習得 <通信学習課題の概要>別紙
②介護におけるチームのコミュニケーション	4	1.5	2.5	<講義内容> ・ 介護におけるチームケア・ケアカンファレンスの重要性について ・ 報告・連絡・相談の留意点と記録の技術について <演習実施方法> 演習手法：事例を用いてグループワークにて個別援助計画を作成する <通信学習課題の概要>別紙
合計時間数	6	3	3	
使用する教材・備品等				

介護職員初任者研修（シラバス）

科目番号・科目名	6. 老化の理解			
指導目標	① 加齢や老化に伴う心身の変化（身体的・社会的・精神的な側面に着目した）を理解する。 ② ライフサイクル理論における老年期のステージの葛藤や発達課題を理解する。 ③ 高齢者に多い疾病と日常生活上の留意点を知る。			
項目番号・項目名	時間数	内 対面学習 時間数	内 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信課題の概要等
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	<講義内容> ・ ライフサイクル理論における老年期の葛藤・発達と老化について（喪失体験・防衛機制等） ・ 老化に伴う心身の機能の及び外見の変化（知能・記憶・知覚・身体機能等）と日常生活への影響 ・ 死生観の確立と自己実現 <通信学習課題の概要>別紙
②高齢者と健康	3	1.5	1.5	<講義内容> ・ 高齢者の身体的老化と生活上の留意点（筋力低下・姿勢の変化・骨折・関節痛等） ・ 高齢者に多い疾病と対策（循環器障がい・老人性うつ・心気症・仮性認知症・誤嚥性肺炎等） ・ 高齢者特有の症状の現れ方と気付きの手がかり ・ DVD教材の視聴により、高齢者に多い疾病を理解 <通信学習課題の概要>別紙
合計時間数	6	3	3	
使用する教材・備品等	DVD ホワイトボード			

介護職員初任者研修（シラバス）

科目番号・科目名	7. 認知症の理解			
指導目標	① 認知症の基礎的知識を習得する。 ② 認知症ケアの理念を理解し、利用者の心理や行動に配慮した、人間性豊かな介護とは何かを学ぶ。 ③ 認知症利用者の生活に即したアクティビティ・ケアの学習や家族へのレスパイト・ケアを学ぶ。 ④ B P S Dの対応について学ぶ。			
項目番号・項目名	時間数	内 対面学習 時間数	内 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信課題の概要等
① 認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	<講義内容> ・ 認知症ケアの理念（パーソンセンタードケア）について ・ DVDの教材の視聴で、認知症の具体的なケースを知り、認知症介護における原則理解の必要性を認識する <通信学習課題の概要>別紙
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	<講義内容> ・ 認知症の医学的な定義、評価スケール、原因疾患別認知症の種類と病態別ケアのポイント ・ 良性老年期健忘との忘れ方の違い・紛らわしい疾患 ・ 薬物療法・非薬物療法（認知症に対する心理学的援助方法） <通信学習課題の概要>別紙
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常	2	1	1	<講義内容> ・ 認知症の中核症状と生活障がい、講師の実践経験もおりませた援助方法について ・ B P S Dの種類と対処、誘因となる不適切なケアや環境 ・ 認知症の進行に合わせた世界観の理解や多様なコミュニケーションの方法 <通信学習課題の概要>別紙
④ 家族への支援	1	0.5	0.5	<講義内容> ・ 認知症の介護家族に対するアセスメントの重要性や、ストレスについて ・ エンパワメントの重要性とレスパイト・ケアの実際 <通信学習課題の概要>別紙
合計時間数	6	3	3	
使用する教材・備品等	DVD ホワイトボード			

介護職員初任者研修（シラバス）

科目番号・科目名	8. 障がいの理解			
指導目標	① 障害の概念と、ICF、障がい者福祉の理念について理解する。 ② 高齢者介護との違いや、それぞれの障がい特性をふまえたケアの重要性を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	内 対面学習 時間数	内 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信課題の概要等
①障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	<講義内容> ・ ICFの分類やICDHからの改正ポイントについて ・ ICFの視点による援助 ・ 障がいの医学的分類 ・ ノーマライゼーション理論について、実践指針 <通信学習課題の概要>別紙
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解	1	0.5	0.5	<講義内容> ・ 障がいの医学的側面と生活障がいについて ・ それぞれの障がい特性による、コミュニケーション法や心理・行動の援助のポイント ・ 療育の視点の重要性及びライフサイクル理論を考慮した援助を講師の実践経験等も含めて <通信学習課題の概要>別紙
③家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	<講義内容> ・ 家族の障がいの受容課程と意思の理解 ・ 介護職と家族のラポールの形成について ・ 介護負担とレスパイト・ケア ・ DVDの視聴による利用者本人と家族へのコミュニケーション支援の理解 <通信学習課題の概要>別紙
合計時間数	3	1.5	1.5	
使用する教材・備品等	中島映像教材出版発行 DVD教材 「DVDでみる高森信子の家族SST あなたの力が家族を変える」			

介護職員初任者研修（シラバス）

科目番号・科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<p>① 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的知識を介護の展開とともに、模型を使用した説明、講師による実演等により理解する。</p> <p>② サービス提供事例の紹介により、利用者が自己の生活に満足感や充足感を感じることができるようなQOLの高いサービスが求められており、そのためには介護職としての専門的かつ適切な技術が必要であること理解する。</p> <p>③ イの④～⑩のような個々の生活場面の援助法として、根拠ある理解と介護技術の習得をする。</p> <p>④ また、介護技術の提供時に必要な、本人の主体的意欲を引き出す自立（自律）支援のための、声掛けや介助のポイントを習得する。</p> <p>⑤ 個人の尊厳ある「死」を見据えた上での充実した「生」について考え、ターミナルケアの考え方や対応、介護職のはたす役割、他職種との連携を学ぶ。</p>			
項目番号・項目名	時間数	内 対面学習 時間数	内 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信課題の概要等
ア①介護の基本的な考え方	4	3	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護に関する専門的知識・技術の必要性と求められる介護士像について</li> <li>・ 法的根拠に基づく介護</li> <li>・ 利用者主体の介護とは</li> <li>・ 生活障がいの改善・QOL向上の視点について</li> </ul> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
ア②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	3	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記憶・学習のメカニズムと加齢</li> <li>・ 感情・意欲の発生(マズローの欲求段階説)</li> <li>・ 老年期の自己概念と生きがい</li> <li>・ 老化への適応</li> <li>・ 障がいの受容課程と価値転換に向けての援助</li> <li>・ 障がいの自己受容と社会受容</li> </ul> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
ア③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	4	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人体の構造と機能(人体の解剖に関わる用語・運動の用語)</li> <li>・ バイタルサインについて</li> <li>・ 骨・関節・筋に関する基礎知識</li> <li>・ ボディメカニクスの考慮</li> <li>・ 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識</li> <li>・ 自律神経と内部器官に関する基礎知識</li> <li>・ 高齢者の健康と老化(QOL・ADL・IADLの評価と維持向上について)</li> </ul> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>

イ④生活と家事	5	4	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家事援助についての基礎知識</li> <li>・ 個々の生活歴や多様な価値観・生活習慣の尊重の重要性</li> <li>・ 主体性・能動性を引き出す自立支援</li> <li>・ 疾患別調理の工夫</li> </ul> <p>&lt;演習実施方法&gt; 演習手法：具体的な援助の失敗事例を用いて、小グループでディスカッションする</p> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
⑤快適な居住環境整備と介護	4	3	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者・障がい者特有の快適な居住環境の整備と福祉用具</li> <li>・ 福祉用具に関する留意点と支援方法</li> <li>・ バリアフリーとユニバーサルデザインの基礎知識と事例紹介</li> <li>・ 高齢者・障がい者に多い家庭内での事故の事例紹介</li> </ul> <p>&lt;演習実施方法&gt; 演習手法：具体的な利用者の事例を用いて、行動特性や安全に配慮した快適な環境整備の工夫を小グループでディスカッションする</p> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	2	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整容に関する基礎知識（意義や目的・支援方法と留意点）</li> <li>・ 身体の状態に合わせた衣服の選択</li> <li>・ 口腔ケアと義歯の基礎知識</li> </ul> <p>&lt;演習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着脱の実技指導（ベッド上での半介助・全介助のパジャマ・浴衣交換）</li> <li>・ モーニングケアの実技指導</li> </ul> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9	8	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移動・移乗に関する基礎知識</li> <li>・ 自立支援に繋がる移動・移乗介護の重要性</li> <li>・ 利用者に負担の少ない移動・移乗の方法</li> <li>・ 移乗・移動時の補助具（車椅子や杖、スライディングボード、リフト等）の説明</li> <li>・ 社会参加の留意点</li> </ul> <p>&lt;演習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボディメカニクス（人間の自然な動作の活用）・良肢位・体位の実技指導</li> <li>・ 安楽な体位・褥瘡予防の実技指導</li> <li>・ ベッド上の体位変換の実技指導</li> <li>・ 車椅子の基本構造・名称と点検の実技指導</li> <li>・ 車椅子の移乗（半介助・全介助のベッド・ポータブルトイレ⇄車椅子）の実技指導</li> <li>・ 車椅子の移動（乗車）の実技指導</li> <li>・ 視覚障がい者の歩行の介護の実技指導</li> </ul> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>

⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	3	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事に関する基礎知識（意味・環境整備・福祉用具の活用等）</li> <li>・ 豊かな食事介助の視点</li> <li>・ 低栄養と脱水のリスク</li> <li>・ 嚥下・咀嚼のメカニズムと利用者にあった食事形態</li> </ul> <p>&lt;演習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姿勢の整え方及びベッド上での食事介助の実技指導（誤嚥性肺炎の予防）</li> <li>・ 視覚障がい者の食事介助の実技指導</li> </ul> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
⑨入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9	8	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入浴・清潔保持の基礎知識</li> <li>・ 入浴用具活用法</li> <li>・ 入浴時のリスク軽減の為の留意点（環境整備・バイタルサイン測定等含む）</li> <li>・ 目・鼻・耳・爪の清潔方法とスキンケア</li> </ul> <p>&lt;実技演習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡易浴槽での安全な入浴介助の実技指導</li> <li>・ ベッド上での全身清拭の実技指導</li> <li>・ ベッド上での洗髪の実技指導</li> <li>・ ベッド上での部分浴（手浴・足浴）の実技指導</li> <li>・ ベッド上での陰部洗浄の実技指導</li> <li>・ 目・鼻・耳・爪の清潔方法とスキンケア</li> </ul> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	3	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 排泄に関する基礎知識（身体面、精神面、社会面での意味・排泄障がいの日常生活上の影響、心理的負担・便秘の予防等）</li> <li>・ 自尊心・羞恥心への配慮（プライバシーの確保）</li> </ul> <p>&lt;実技演習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベッド上での挿入便器・尿器・おむつ交換の実技指導</li> <li>・ 褥瘡予防のための配慮</li> </ul> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	2	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 睡眠に関する基礎知識</li> <li>・ 安眠の為の介護の工夫と環境整備</li> </ul> <p>&lt;実技演習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シーツ交換の実技指導</li> </ul> <p>&lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	9	8	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終末期に関する基礎知識（ターミナルケア・緩和ケア）</li> <li>・ 死の受容と死生観の確立</li> <li>・ 高齢者に多い死の原因と兆候</li> <li>・ 介護職の基本的態度と他職種との連携</li> </ul> <p>&lt;実技演習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DVDの視聴によるターミナルケアの理解</li> <li>・ DVDの視聴による老人介護施設でのタ</li> </ul>

				<p>ーミナルケアの実際          &lt;通信学習課題の概要&gt;別紙</p>
ウ⑬介護過程の基礎的理解	5	5	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護過程のアセスメント・目的・意義・展開・チームケアの視点について</li> </ul> <p>&lt;事例による展開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な利用者の事例（生活場面・障がい状況の異なる 4 事例）を用いて、それぞれの介護過程のアセスメント・目的・意義・展開・留意点・チームアプローチの方法等をロールプレイング・グループワークで学習</li> </ul>
ウ⑭総合生活支援技術演習	7	7	0	<p>&lt;事例による展開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な利用者の事例を用いて、（事例の提示→アセスメント→適切なアプローチの検討→支援実技演習→振り返り→課題まとめ）を実施し、一連の生活指導を提供する流れの理解と技術を習得する</li> <li>・ 事例は高齢者（2 事例）障がい者（1 事例）の合計 3 事例</li> </ul> <p>※ 高齢者は（認知症・失語症・片麻痺・パーキンソン病・関節リュウマチの中から 2 つ選択）</p> <p>※ 障がい者は（肢体不自由・視覚障がい・知的障がい・聴覚障がいの中から 1 つ選択）</p>
合計時間数	75	63	12	
使用する教材・備品等	DVD ホワイトボード			



介護職員初任者研修（シラバス）

科目番号・科目名	10. 振り返り			
指導目標	<p>① 研修全体を振り返り、学んだことの整理・復習と残った課題の確認を行うと共に、介護者となることへのよき動機づけを促す。</p> <p>② 対人援助の難しさ・奥深さに直面し行き詰った時にも、学び続けること、専門職としての知識や技術の研鑽がもたらす豊かな介護の意味を再度強く認識する。</p>			
項目番号・項目名	時間数	内 対面学習 時間数	内 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信課題の概要等
①振り返り	2	2	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講生本人に、研修を振り返って学んだこと（初めて知り理解した事、今まで気付かずにいて気付いた事、これから介護職員として働くにあたって大切だと思う事等）各自どれか一つを選択して記述・発表</li> <li>・ 講師は受講生の発表の中からポイントを拾い、これまでの研修の復習・確認となる部分の内容を講義</li> <li>・ 受講生一人ひとりの今後の課題をシートにまとめる</li> </ul>
②就業への備えと研修修了後における実例	2	2	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職としてのマナー・接遇について</li> <li>・ DVDの視聴で、介護職の働く現場や仕事内容をリアルにイメージしてもらい、学ぶ前と学んだ後の違いも実感させる</li> <li>・ また、質疑応答にて就業への備えとする</li> </ul>
合計時間数	4	4	0	
使用する教材・備品等	DVD ホワイトボード			